

「2025年度学生生活アンケート」結果——満足度について

■分析方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」に係る設問は7問あります（下図参照）。各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去4年の値と比較しました。

2025年度は調査対象者数441名のうち回答が得られた306名（回答率69.39%）の結果を分析しました。

■分析■

まず、2025年度卒業生の在学中の満足度の推移（1年生時（青）, 2年生時（赤）, 3年生時（緑）, 4年生時（紫））をみると、年次が進むにつれて満足度が高くなる傾向が認められます（図1）。設問6「自分の生活に満足している」や設問9「所属している学科に入って正解だったと思う」で3.60を超える値となっており、大学での生活に高い満足感をもって卒業した様子がうかがえます。

一方、図2で過去4年における回答者全体の満足度の推移をみると、いくつかの設問で前回2024年度の結果を下回る値となりました。図1でみたように卒業生の満足度は高かったものの、在生学生も含めた全体の満足度では前回よりも低かったことを示唆しています。2026年度に卒業する在生学生が高い満足度をもって卒業してもらえるような教職員の取り組み・心がけも求められます。建学の精神の認知度（設問17）も課題です。

図3をみると、在籍している学年別の満足度（設問6～設問9, 設問12）は2～3年生で低くなったあと4年生で回復し、高い満足度をもって卒業したと見受けられる一方で、大学生生活に慣れた2～3年生の満足度を高めることが課題となっています。

図1 満足度（卒業生、在学中の推移）

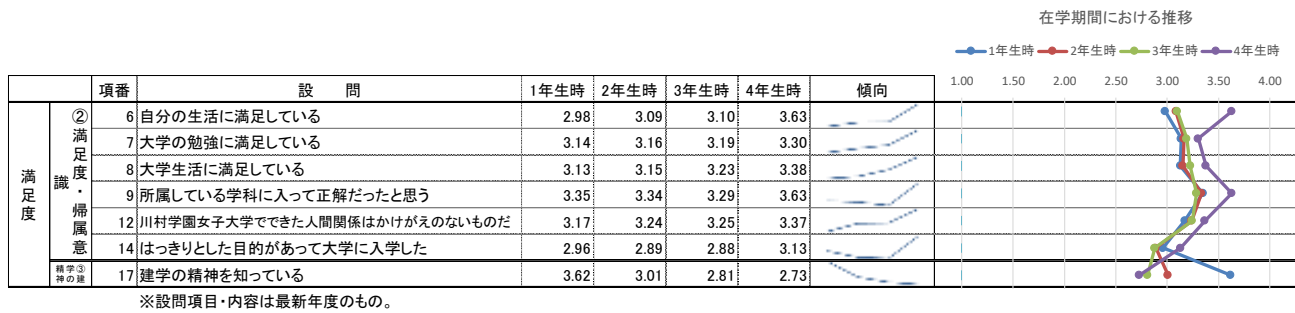


図2 満足度の過去4年の推移（2022～2025年度、回答者全体）

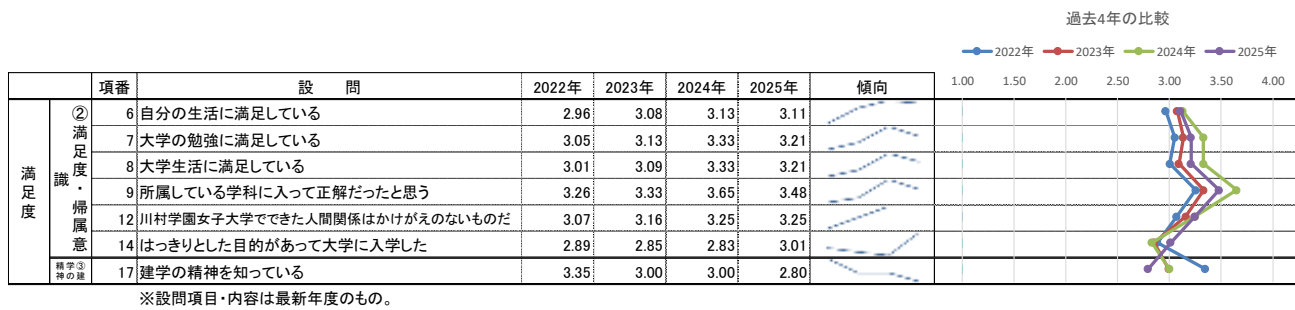


図3 満足度の比較（学年別、回答者全体）

